石巻線の活性化に向けて

宮城県仙台第三高等学校 22班

1.背景と目的

石巻線は現在営業係数※1が971円であり、宮城県内では赤字路線として知られている。この状況が続いていけば廃線の危機にも陥る可能性がある。そこで石巻線を維持していくためにこのようなテーマで活動している。

※100円の売上を出すために かかる費用

2.各所からのローカル線についての意見

＜宮城県庁＞

鉄道の利用促進において重要な観点は次の4つ

住民:沿線住民の利用拡大策

まち:駅起点のまちづくり

観光:交流人口と鉄道利用の拡大

産業:沿線の事業者と鉄道利用者を結びつけた産業の活性化

＜近江鉄道＞

過疎地域においては住民の鉄道に対する意識が低い。小学生の中には鉄道に乗る上で切符が必要であることすら知らない子供もいる。したがってモビリティマネジメント教育を通して住民が鉄道の利用方法について知ることは有効な利用促進策になる

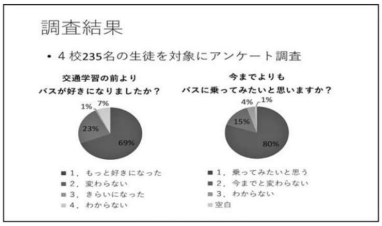
＜女川町役場＞

駅をバリアフリー化したり、石巻線の利用者に特典を設けるなど、石巻線を利用しやすい、利用したいという思ってもらえるような施策が有効

3.提案

MM(モビリティ・マネジメント)

地元の小学校を中心に鉄道の乗り方を教えたり公共交通機関に対して意識を向けてもらうための啓発活動をする.

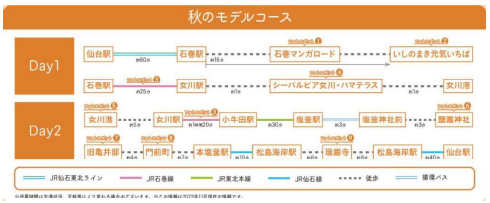


パークアンドライドがしやすいまちづくり

駅周辺に駐車場、駐輪場を整備する。自動車と鉄道の乗り継ぎをスムーズに行うことができる

石巻線沿線の観光地をまとめた観光モデルコースの策定

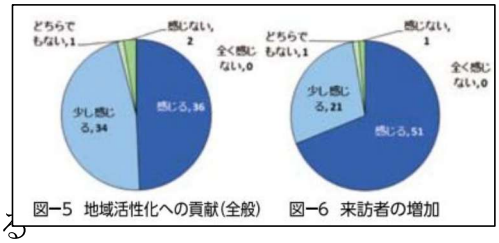
鉄道沿線の観光地の活性化と鉄道利用促進を目指す。宮城県は仙石線の観光モデルコースを制作している



石巻駅や女川駅に地域の物産販売をする施設を作る(駅直結の道の駅)

沿線の食品加工会社等の商品を販売する物産施設を作り地域の活性化と駅への来訪者の増加を図る。

北海道で実施された道の駅へのアンケートでは9割以上の道の駅が地域活性化や来訪者の増加を実感している



図−5 地域活性化への貢献(全般)　図−6 来訪者の増加

4.まとめ

過疎地域の鉄道は利用が少なく厳しい状況にあるが、まちづくりや観光振興のなど観点で対策を講じれば現状の緩和、改善も可能であることがわかった。またそれぞれの年齢層に合わせた取り組みだけでなく、MM教育のような将来を見据えた取り組みも効果的だとわかった。

参考文献

(1)路線別ご利用状況（1987～2022年度(5年毎)）

(3)近江鉄道を核とした地域活性化のための 「鉄学連携」の試み

https://rmec.or.jp/wp-content/uploads/2016/11/36_41P_gijyutsu_report.pdf

#みやぎ鉄道旅ー宮城県